

<様式>

学 校 名	山形市立滝山小学校 山形市小立四丁目13-86 Tel 631-2248 FAX 631-9034	校 長	大城 勝利
		研究主任	多田 愛
研 究 主 題	豊かに表現し合い 学びをつないでいく子ども ^(5年次) ~カリキュラム・マネジメントの視点を通じた授業改善を目指して~		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>【社会的背景から】 これからの学校には、児童が多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められている。また、その時代に求められる資質・能力を身に付けるために、生涯にわたって学び続ける力の基盤を確立することは学校教育における喫緊の課題である。</p> <p>【研究の過程から】 令和4年度は、児童が学んだことを先の学習や生活にどのようにつなげていくのか、教師がイメージをもって単元を構想することに重点を置き、学びの縦の系統性を意識した「関連付ける深い学び」に着目して研究を進めてきた。適切な教材研究によって立てられた綿密な単元計画により、児童は教科特有の見方・考え方を正しく働かせながら、自分の考えを表出することができた。そこで、「関連付ける深い学び」を前提とし、より効果的な教育活動をねらうために、カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科との結びつきを意識し、育成したい資質・能力について教科横断的に学びをつなぐことを今年度のテーマとした。 以上のことから、本校では「<u>豊かに表現し合い 学びをつないでいく子ども</u>」を自ら学び続ける子どもの姿ととらえ、令和5年度は「<u>カリキュラム・マネジメントを通じた授業改善</u>」を実践することで、児童の力を育成していく。</p> <p>「豊かに表現し合う」 <u>他者との対話や自己内対話</u>を通して、多面的・多角的な視点で物事をとらえ、考えたことを自分なりの表現方法で表出し合うこと。</p> <p>「学びをつなぐ」 <u>学び</u>を中心として、生活経験や既習事項・次の学習や生活、今後の生き方・考え方などに関連付け、積み上げた学びを生かそうとすること。</p>		

研究の目標

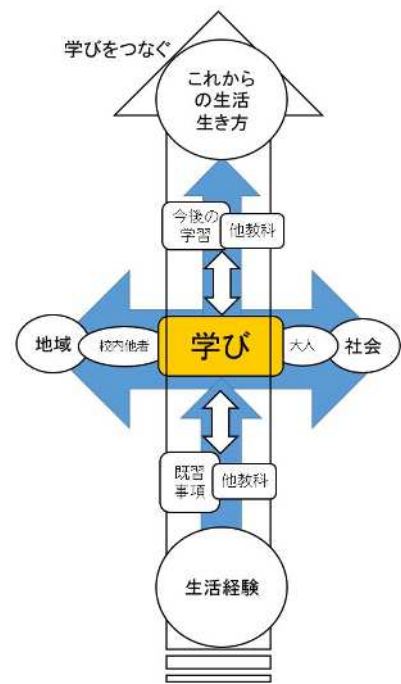
今年度の学校経営テーマである『子どもが学びの主体として育つ学校をつくる』ためには、児童の実態を踏まえ、学年の児童に必要な資質・能力を明らかにして教育活動を進めていくことが不可欠である。特定の教科や単元だけでなく、教科横断的な視点のもと、生活科や総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントを充実させていくことで、これまでよりも更に効果的に資質・能力を高めていくことができるのではないかと考える。そして、生活科・総合的な学習の時間では、子どもの関心や課題意識を起点とし、地域や故郷に目を向けることで改めてその良さを発見したり、協働的に探究することで学びを深めていったりする姿を目指していく。様々な人、もの、環境の中で学びをつないでいくことで、本校の学校教育目標である『ゆたかな心で自ら学ぶたくましい子どもの育成』につながると考える。

研究の内容

【めざす深い学びの姿→関連付けるとは】

「学び」を中心にして「生活経験」「既習事項」「他教科」「今後の学習」「これからの生活・生き方」との相互関係(⇔)が、学習が進むにつれて、占める割合を変化させながら、つながっている状態

学びを深める要素として、地域社会や校内他者(ex. 教師)など、横のつながりについても必要に応じて活用していく。



【深い学びを実現するための授業改善の視点】

1 めざすゴールの姿・深い学びの姿の設定

単元前の既習事項や生活経験とのつながりだけではなく、単元後の学習や今後の生活に学んだことを生かしていく姿でもとらえる。(未来志向の学びの活用)

2 カリキュラム・マネジメント表を生かした教育課程の見直し・修正

- ・定期的なカリ・マネの見直しによる継続的な児童の実態把握
- ・カリ・マネ表の常時加除修正→学びの歩みとして活用していく。

3 単元・題材の内容全体を見通した指導計画のデザイン

- ・育てたい資質・能力を児童が獲得できるような学習活動を設定し、その学びの過程を重視する。
- ・単元内や単元の前後のつながり、カリ・マネの視点から教科等横断的なつながりを意識した授業構想をする。

<p>研究の方法</p>	<p>(1)カリキュラムマネジメントの中軸に生活科と総合的な学習の時間を置く。</p> <p>(2)学年の共同研究とし、学年の児童に必要な資質・能力を明らかにして研究を進める。 総合的な学習の時間については、学年で大テーマを設定した上で、基本的には学級ごとに学習を進めていく。小単元の構成の仕方については、『分散型』『年間継続型』『並列型』『複合型』等の中から各学年で自由に設定する。</p> <p>(3)研究授業は小研・中研・大研を設定する。大研は学年部から1名、中研は大研を出していない学年より1名、その他を小研とする。(特支学級を含め大研は4本)</p>
<p>研究の計画</p>	<p>4月 研究全体会①</p> <p>6月 研究全体会②</p> <p>【6/19(月)】 大研①(3年)</p> <p>【7月上旬】 大研②(2年)</p> <p>7月 カリマネ振り返り・研修会</p> <p>【10月中旬】 大研③(特支)</p> <p>【12月中旬】 大研④(6年)</p> <p>12月 カリ・マネ振り返り・研修会</p> <p>2月 研究全体会③</p>